

## 教 育 研 究 業 績 書

令和 5 年 5 月 1 日

氏名 印

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
社会学、人口学、ジェンダー		社会、人口、移民、ジェンダー、統計	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項			
事項	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 a. 海外研修  b. 課外学習  c. リアクションカードの使用	平成30年より毎年  平成30年11月  令和2年10月より  令和元年9月より毎年	ニューヨークにある国連本部にて職員によるブリーフィングを受ける海外研修を企画、コーディネーター。研修旅行にも同行し、学生の理解度を随時確認した。  東京外国語大学でのWorld Populationsの授業では、東京のエスニック・コミュニティを訪れ、地元の文化センター等を訪ねて異文化共存について学ぶ機会を企画、コーディネーターした。  茨城県立緑岡高等学校の海外短期留学プログラム事前研修を企画、講義を行う。  常磐大学の国際関係論の授業では、毎回リアクションカードを用いて授業内容の理解を確認するための課題を出している。	
2 作成した教科書、教材			
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
4 実務の経験を有する者についての特記事項 英国Bristol大学 Summer Seminar on Migration Data for Policy 上智大学国連ウィークシンポジウム 水戸商工会議所トップセミナー 台湾成功大学夏季特別講習 石橋記念財団国際交流事業研修 茨城県女性団体連盟フォーラム 名古屋大学大学院特別講義 茨城における高等教育の在り方に関するシンポジウム 茨城県市町村教育長協議会夏期研修会 茨城県経営者協会講演会 笠間市教育委員会SDGs講演会 日本国際秘書学会 第29回全国大会 茨城県地球温暖化防止活動推進員スキルアップ研修会 ひたちなかIT企業協議会講演会 茨城県人権教育指導者中央研修会 水戸市男女平等参画基本条例施行20周年記念事業「ヒューマンライフシンポジウム2021」 女性学長研究会主催シンポジウム 茨城県議会と常磐大学および常磐短期大学の相互連携・協力に関する包括協定締結記念講演会 茨城県生涯学習・社会教育研究会及び特定非営利活動法人ひと・まちなつとわーく合同研修会 国際心理学会会議(ICP) Regional Conference Tokyo2022	平成30年7月 平成30年10月 令和元年5月 令和元年8月 令和元年9月 令和元年10月 令和元年10月 令和2年2月 令和2年7月 令和2年9月 令和2年11月 令和2年11月 令和3年1月 令和3年6月 令和3年6月 令和3年9月 令和3年11月 令和3年11月 令和4年6月 令和4年7月	講師 パネリスト 講師 講師 講師 コーディネーター 講師 パネリスト 講師 講師 講師 基調講演 講師 講師 講師 モデレーター パネリスト 講師 講師 講師	
5 その他 表彰 米国社会学学会(ASA) Honorable Mention Award 受賞 水戸市男女平等参画社会づくり功労賞	平成14年8月 令和元年9月		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ボスニア・ヘルツェゴビナ国勢調査  ミャンマー国勢調査	平成25年度～平成28年度  平成25年度～平成28年度	国際諮問委員会委員として国勢調査の計画、実施を支援した。  国際諮問委員会委員として国勢調査の計画、実施を支援した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. Living Arrangements of Women and their Children in Developing Countries (和訳: 開発途上国における女性と子供の同居形態)	単著	平成7年10月	United Nations, Demographic Profile. ST/ESA/SER. R/141.	開発途上国の女性と子供の同居、家族形態をWFSならびにDHSのデータを使って実証的に検証した。国連の専門書として出版された。
2. 人口大辞典	共著	平成14年6月	培風館	人口大辞典は、日本人口学会の編集による人口問題に関する辞典である。国際人口移動の将来についての展望を述べた。 担当部分: 第2部第6章5, 国際人口移動の将来展望 (査読付), pp. 219-222, 日本人口学会編
3. Levels and Trends of International Migration to Selected Countries in Asia. (和訳: アジア諸国における国際人口移動の動向)	単著	平成15年1月	United Nations, ST/ESA/SER. A/218.	アジア地域における国際人口移動の現状とパターンについて、歴史的見地から再検証した。国連の専門書として出版された。
4. Global Movements in the Asia Pacific. (和訳: アジア太平洋地域における国際的な移動)	共著	平成22年1月	World Scientific Publishing	アジア太平洋地域の国際人口移動のパターンを概観したうえで、国連の国際人口移動の問題に対するアプローチをまとめたもの。 担当部分: “International migration in Asia and the Pacific: Key features and the role of the United Nations” (和訳: アジア太平洋地域における国際人口移動: 主な特徴と国連の役割), pp. 27-36, Pookong Kee・Hidetaka Yoshimatsu編
5. Handbook for Improving the Production and Use of Migration Data for Development (和訳: 国際人口移動統計の作成と利用のためのハンドブック)	共著	平成29年7月	Global Migration Group	国際人口移動統計のデータソースの紹介と、それぞれのデータソースの特徴や限界についてまとめた。 担当部分: “Chapter 1b: Data Sources” (和訳: 第1章b項 データソース), pp. 19-24
6. Handbook on Measuring International Migration through Population Censuses (和訳: 国勢調査を用いた国際人口移動の計量に関するハンドブック)	共著	令和4年	United Nations, ST/ESA/STAT/SER. F/115.	国連が発刊する統計専門書。総合的な監修を務めた。

<p>(学術論文)</p> <p>1. “Men, adolescents and youth: unmet needs in family planning” (和訳：男性、青年と若者—家族計画の必要性—)</p>	<p>単著</p>	<p>平成5年6月</p>	<p>Family Planning Programmes in Asia and the Pacific: Implications for the 1990s, Asian Population Studies Series No. 116. ESCAP. pp. 102-112</p>	<p>アジア太平洋地域の家族計画のUnmet Needsについて、特に男性、若者に焦点を当てて分析した。</p>
<p>2. “When refugees are women” (和訳：難民が女性の場合)</p>	<p>単著</p>	<p>平成9年10月</p>	<p>Refuge (Toronto), vol. 16, no. 4, Center for Refugee Studies, York University, Canada. pp. 9-16</p>	<p>女性が難民として国外に避難を求める場合の特異なメカニズム、また、支援を行う際に特に必要な配慮について論じた。</p>
<p>3. “Economic interactions of migrants and their households of origin: Are women more reliable supporters?” (和訳：移民とその家庭の経済的相互作用：女性はより信頼できるサポーターか?) (査読付)</p>	<p>単著</p>	<p>平成11年10月</p>	<p>Asian and Pacific Migration Journal vol. 8, No. 4. (Manila), pp. 447-471</p>	<p>タイにおける人口動向の顕著な特徴の1つは、女性の国内移動が増加していることである。都市部で経済的機会が増えることによって、より多くの女性が国内を移動することとなった。本稿では、ジェンダーの視点から、移動者と残された世帯の世帯間のお金や物資の移転について検討した。</p>
<p>4. “International migration in Eastern and South-eastern Asia: a regional overview”, (和訳：東および東南アジアにおける国際人口移動)</p>	<p>単著</p>	<p>平成12年3月</p>	<p>Proceedings of the International Workshop on International Migration and Human Resources Development in the APEC Member Economies, アジア経済研究所 (JETRO)</p>	<p>東および東南アジア地域における国際人口移動の現状をまとめた。</p>
<p>5. “国際人口移動”</p>	<p>単著</p>	<p>平成13年3月</p>	<p>人口問題に関する総論と課題 (後編), 国際協力事業団 (JICA), 第2章, pp. 17-29</p>	<p>グローバルな視点から、国際人口移動の傾向、現状をまとめた。</p>
<p>6. “International migration” (和訳：国際人口移動)</p>	<p>単著</p>	<p>平成13年</p>	<p>World Population Monitoring 2000: Population, Gender and Development, ST/ESA/SER. A/192. United Nations, Chapter V</p>	<p>ジェンダーの視点から、最近の国際人口移動の現状をまとめた。</p>
<p>7. “Activities of the United Nations in the field of population” (和訳：国連の人口分野における活動)</p>	<p>単著</p>	<p>平成13年12月</p>	<p>The Population Association of Japan. The Journal of Population Studies, No. 29.</p>	<p>主として、国連人口部の活動を紹介。</p>
<p>8. “International migration for education” (和訳：国際人口移動と教育の関係について)</p>	<p>単著</p>	<p>平成15年</p>	<p>World Population Monitoring 2003: Population, Education and Development. ESA/P/WP. 179. United Nations, Chapter V, pp. 141-148</p>	<p>教育程度と人の移動の関連について述べた。また、世界的な留学生の増加、留学先の国の変化についても考察した。</p>
<p>9. “Migrant remittances in Thailand: Economic necessity or social norm?” (査読付) (和訳：タイの国内移動者の送金行動—経済的必然が、社会慣習か?—)</p>	<p>単著</p>	<p>平成15年9月</p>	<p>The Journal of Population Research, November issue, Australian University. pp. 203-222</p>	<p>国内移動者の送金は、家庭の経済にさまざまな形で貢献している。本研究では、タイにおける送金行動に関連する社会経済的要因を検証するとともに、送金先の世帯の生活水準に送金がどの程度影響しているかについても分析した。</p>

1 0. “International Co-operation in the field of international migration” (和訳：国際人口移動分野における国際協力)	単著	平成16年12月	World Economic and Social Survey, Chapter VIII, United Nations. Sales Publication No. E. 04. II. C. 3. pp. 189-208	国連を舞台に、国際的な人の動きを国際社会がどのように捉え、どのような課題に直面してきたかを振り返る。
1 1. ” Addressing the Social dimensions of international migration” (和訳：国際人口移動の社会的考察)	単著	平成20年3月	ESCAP Economic and Social Survey 2008. United Nations. Sales Publication No. E. 08. II. F. 7. Chapter 1, pp. 27-31	国際人口移動がもたらす社会的な影響について考察した。
1 2. “Remittances: Implications for development” , (和訳：開発の視点から見た移民の送金行動)	単著	平成20年10月	Situation Report on International Migration in East and South-east Asia. Regional Thematic Working Group on International Migration including Human Trafficking. Part II, pp. 155-161	東および東南アジアを事例として、海外からの移民による送金が、マクロ、マイクロレベルで社会にどのような影響を及ぼすかについて論じた。
1 3. “Chapter II. Health” (和訳：第二章 健康)	単著	平成22年10月	World’s Women 2010: Trends and Statistics. United Nations. Sales Publication No. E. 10. XVII. 11.	ジェンダーの視点から、最近の男女の健康の動向をグローバルな視点から考察する。
1 4. 世界人口・住宅センサス計画-国連から見た世界の国勢調査事情-	単著	平成27年7月	統計 7月号, (財) 日本統計協会	2010年世界人口住宅センサス計画の紹介とまとめ
1 5. 国際人口移動の世界的潮流と受入国、送出国の人口動向への影響	単著	平成28年6月	統計 6月号, (財) 日本統計協会, pp. 31-35	国際人口移動の主な動向を概観したうえで、移民受け入れ国、送出国それぞれの人口動向にどのようなインパクトがあるのかを考察する。
1 6. 論考：国際社会から見るジェンダー統計の進展	単著	平成31年3月	統計 3月号, (財) 日本統計協会, pp. 38-43	ジェンダー統計をめぐる最近の動向を、国連を中心とした女性の地位向上やジェンダー平等を目的としたと力むとの関係から考察した。
1 7. ”Producing Gender Statistics at Local level:The Case of Mito-city, Japan”co-authored with R.Gotoh and others.	共著	令和4年	Geography, Health and Sustainability: Gender Matters, Globally, Geography of Health Series, edited by A. Williams and I. Luginah. Routledge. pp. 79-88.	茨城県水戸市の事例をもとに地域レベルでのジェンダー統計の可用性を考察した。エビデンスに基づく政策立案 (EBPM) のために、自治体を持つ統計データの充実が不可欠であると主張する。
(その他)				
1. 世界へ届け、日本の国勢調査	単著	平成22年5月	統計調査ニュース No. 282, 総務省統計局, pp. 1	巻頭言。国勢調査は国連がコーディネートする世界的なプログラムであることをアピール。
2. 寄稿 “世界の女性と子どもの健康”	単著	平成22年12月	「北京からの風に吹かれて 世界の女性と子どもの権利」, ウーマンズネットらいず編集, pp. 36-44	World’s Women 2000 の研究より、女性と子供の健康の動向をグローバルな視点から紹介する。
3. 国際連合統計部の仕事とは	単著	平成25年8月	びぶろす 61号, 国会図書館発行, pp. 2-5	国連の中でも、もっとも古い歴史を誇る国連統計部の仕事を紹介する。
4. 新しい世界人口・住宅センサス計画の幕開け	単著	平成27年4月	統計調査ニュース No. 341, 総務省統計局, pp. 1	2010年世界人口住宅センサス計画の始まりにあたっての巻頭言

5. 世界の女性2015が描く女性の今	単著	平成27年7月	NWE C男女共同参画統計ニューズレター No. 18, 国立女性教育会館, pp. 1-2	本稿は、最新の統計を用いてジェンダー平等の現状と動向を、国際比較を通して把握しようとするもので、5年ごとに再版を重ねてきた国連の出版物World's Womenの2015年版の紹介も兼ねている。
6. 持続可能な社会の形成に求められるジェンダー平等	単著	平成28年10月	We Learn 10月号, 日本女性学習財団, 巻頭言 pp. 3	新たに採択された持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) にどのようにジェンダーの視点が反映されているかに言及した。
7. 地方大学の学長というアイコン	単著	令和4年6月	「女性学長はどうすれば増えるか」東信堂, pp. 79-88	女性学長をめぐる国内外の現状分析を目的とした研究プロジェクトの一環として開催された女性学長シンポジウムでの講演録。
8. 海外で働くということ -国連勤務から見えてきたこと-	単著	令和3年	日本国際秘書学会 (JAISS) 研究年報第28号, pp. 35-42	日本国際秘書学会第29回全国大会における基調講演。国連での勤務をもとに日本人が国際社会の中で直面するコミュニケーション上の課題について論じた。
(学会発表)				
1. ” The 2010 Round of Population and Housing Censuses: A Global Review” (和訳: 2010年世界人口・住宅センサス計画: 世界での実施状況)	-	平成25年8月	Congress of International Statistical Institutes (ISI) The 59th World Statistics Congress, Hong Kong, China	「2010年世界人口・住宅センサス計画」の総合的考察
2. 「What is Census?」 -At a Time of Changing Methodologies- (和訳: 「センサスとは?」 -変化する調査手法-)	-	平成27年7月	Congress of International Statistical Institutes (ISI) The 60th World Statistics Congress, Rio de Janeiro, Brazil	センサスの調査手法の変化に伴う課題をグローバルな視点から考察した
3. Methodologies of Population and Housing Censuses: Experiences of The 2010 Census Round (和訳: 人口・住宅センサスの調査手法: 2010年センサス計画期の経験)	-	平成27年7月	Congress of International Statistical Institutes (ISI) The 60th World Statistics Congress, Rio de Janeiro, Brazil	センサスの調査手法に焦点をあて、2010年世界人口・住宅センサスの実施状況を総括した
4. 世界における人口センサスの動向	-	令和2年11月	日本人口学会 第72回大会 (オンライン) 企画セッション 「100周年を迎えた国勢調査-歴史と展望-」	「2020年世界人口・住宅センサス計画」の中間時点における計画の実施実施状況を把握し、調査手法の変化をグローバルな視点から考察した
5. 思春期の若者の健康と権利 -グローバルイシューとしての課題と挑戦-	-	令和4年8月 (予定)	第4回日本思春期学会総会特別講演	グローバルな視点から若者の健康と権利に関する議論の変遷を振り返る。